

# 暫定まとめ：iPhoneでの文書作成／書類作成法（2026版）

---

## Apple Intelligence が iPhone に付いている

- ・ 作文・整形・要約・言い換えが可能
- ・ リッチテキスト ⇔ Markdown の変換器として使用可能
- ・ 実質的に インポート機能（整形取り込み）として運用できる

---

## iPhoneは“変換器”として使える

- ・ 文章をiPhoneに通すだけで Apple 書式（メモ／Pages）に落とせる
- ・ iPhone単体の編集力不足を AI が補完

---

## 編集は Windows からでも可能

- ・ iCloud 経由で Windowsブラウザから編集可能
  - ・ メモ（Notes）
  - ・ Pages
- ・ ただし Apple Intelligence は iPhone / 対応Mac で動作

---

## Apple文書として資産化できる

- ・ Appleフォント前提の見栄えになる
- ・ メモ／Pages形式で保存、修正も速い
- ・ “Apple書類資産”として蓄積可能

---

## 出力（エクスポート）が強い

- ・ Pages → PDF出力が綺麗、そのまま提出物にできる
- ・ メモ → 共有でテキスト化・搬送が速い
- ・ Wordを経由せずに完結可能

---

## テンプレ化が効く

- ・ Pagesで雛形（手順書・仕様書・賞状など）を作成すれば次回から爆速
- ・ 構成の立ち上げコストを削減可能

---

## 画像（スクショ）運用が強い

- ・ iPhoneで撮影／スクショ → そのまま貼付
- ・ 手順書・記録・説明資料が作りやすい

---

## 音声入力が強い（片手・寝ながら運用）

- ・ 粗い入力を作り、Apple Intelligence で整形すると文章になる
- ・ 入力負荷が小さい

---

## 「原本」と「閲覧／提出用」を分けると事故が減る

- ・ 原本：Markdown（壊れにくい）
- ・ 提出・閲覧：メモ／Pages（綺麗、読みやすい）
- ・ 変換は万能ではないため、二層構造が安全